

いちねん けい がんたん  
一年の計は元旦にあり

New year's day is the key of the year.

「一年の計は元旦にあり」という言葉は昔からよく使われている故事成語です。

【由来 その1】

中国の明の時代に編纂された「月令廣義」という書物の一説に由来するというもの。

【由来 その2】

戦国武将の 毛利 元就 が「一年の計は春にあり、一月の計は朔にあり、一日の計

は鶏鳴（朝を「鶏鳴」と表している）にあり」と長男の 毛利 隆元 への手紙に書いたという説からというもの。

いずれにしても、

「その年にすべきことは、元旦に計画を立てるべきである。物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だ。」

ということを意味しています。

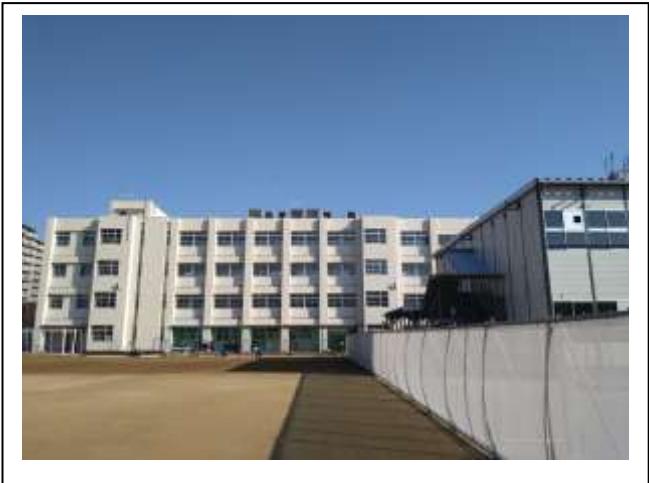
大晦日（12月31日）から元旦（1月1日）になったからといって、日にちが1日進むだけで、いつも通りの朝が来るだけです。でも、新しい年の始まり、「節目の日」です。何か今年の「目標」を自分なりに考えて決めてみましょう。そして、「計画」を立ててください。

確かに、物事はなかなか計画通りには進みません。いや、計画通りに進むことの方が少ないかもしれません。でも、めざす「目標」があり、「計画」があるからこそ、「修正」ができる、新たな「目標」と「計画」を立てることができます。もしかすると、人生はこの繰り返しなのかもしれません。ぜひとも、元旦の「一月一日」に今年1年で自分がめざすところを定めてみてください。

日本には、「書き初め」の文化があります。新年に筆をとり、1年の抱負や目標をしたためるのが「書き初め」です。一般的には1月2日に行います。古くは宮中で行われていた儀式でしたが、やがて江戸時代の寺子屋や明治時代の学校で習字教育が重視されるようになります。庶民の間に「書き初め」の習慣が広まりました。ぜひ、毛筆で「一年の計」を書にしたためてみましょう。

年が明けると3年生は中学校生活の総まとめ、残り50日ほどの中学校生活となります。1・2年生にとっても学年のまとめの時期となります。学校生活においても、「目標」を定め、「計画」を立て、心身ともにさらに大きく成長して欲しいと願っています。

# あと1か月と少しの予定です



新校舎に移転して、早くも2か月を迎えようとしています。生徒の皆さんもすっかり慣れてきたようです。

南側のコンクリートブロック塀をコマ柵にする工事も終わりました。残るは、プレハブの撤去工事になります。外側の囲いも張り巡らされ、トラックなどの車が通る通路も確保されました。プレハブからはいろいろな備品等も運び出され、残るは建屋を解体するのみです。

予定では、1月末には囲いも取れて、運動場の整地が行われます。2月の初めには広大な運動場を利用できるようになるでしょう。生徒の皆さん、あと1か月と少し待ってください。

